

2019年度 第1四半期 決算概要

I. 2019年度 第1四半期 連結業績概要

II. 補足資料

シャープ株式会社

2019年8月1日

【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

※前年増減額等は、表示された億円単位の金額を元に算出しております。

I . 2019年度 第1四半期 連結業績概要

SHARP

1

- ・ 本日はご多忙な中、お集まり頂き ありがとうございます。
また日頃は、当社の広報(IR)活動にご協力頂き、まことにありがとうございます。
- ・ それでは、お手許にお配りしておりますパワーポイント資料に沿って、説明いたします。

2019年度 第1四半期 連結業績概要(1)

- 厳しい事業環境は継続したものの、
体質改善が進んでいることもあり、
営業利益率・最終利益率が、第4四半期を上回るなど
業績は、2018年度の第4四半期を底に回復基調
- 11四半期連続で最終黒字となる
- A種種類株式を全数取得・消却するなど
資本の質も着実に向上

SHARP

2

- まず、2019年度 第1四半期の連結業績の概要です。
- 厳しい事業環境は続いているものの、
体質改善が進んでいることもあり、
営業利益率と最終利益率が、2018年度の第4四半期を 上回るなど
業績は、2018年度の第4四半期を底に 回復基調となっております。
- また、2016年度の第3四半期以降 継続している最終黒字は、
第1四半期で 11四半期連続となりました。
- このほか、希薄化リスクや優先配当を有するA種種類株式の全数取得・消却を
6月21日に完了するなど、資本の質も着実に向上しております

2019年度 第1四半期 連結業績概要(2)

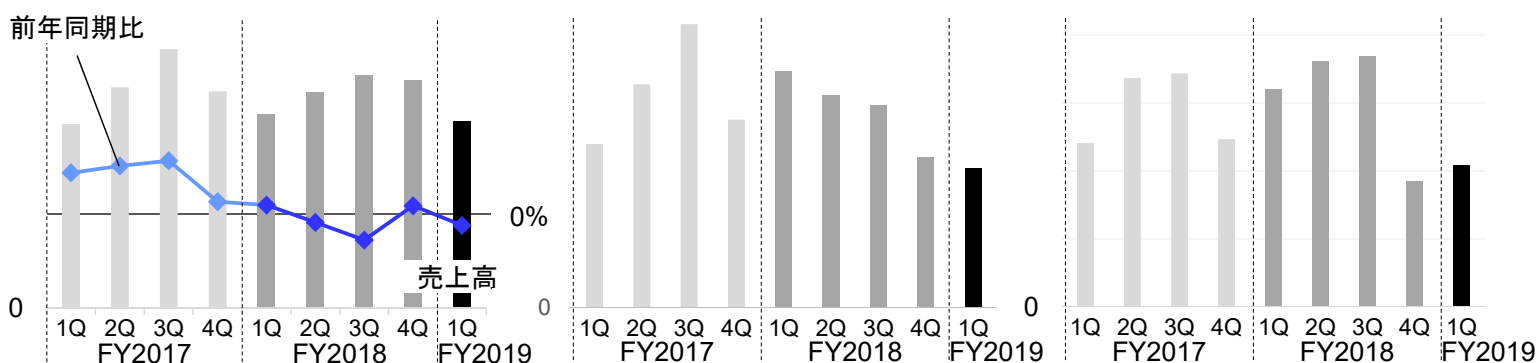
(単位:十億円)

	2018年度				2019年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前同比
売上高	533.8	595.1	642.5	628.5	514.9	-3.5%
営業利益	24.8	22.2	21.2	15.8	14.6	-41.1%
経常利益	21.2	21.9	18.8	6.9	13.9	-34.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	19.2 (3.6%)	21.7 (3.7%)	22.1 (3.4%)	11.1 (1.8%)	12.5 (2.4%)	-34.7%
平均為替レート						
ドル円	108.07	110.46	111.90	109.21	108.90	
ユーロ円	128.56	128.12	127.28	123.66	121.99	

売上高

営業利益

親会社株主に帰属する四半期純利益



SHARP

3

- ・ 次のスライドは、2019年度 第1四半期の 業績数値です。
- ・ 売上高は、5,149億円となりました。
- ・ 利益については、
営業利益が 146億円、経常利益が 139億円、
親会社株主に帰属する四半期純利益が 125億円となりました。

体質改善が進んでいることもあり、11四半期連続での最終黒字となっております。

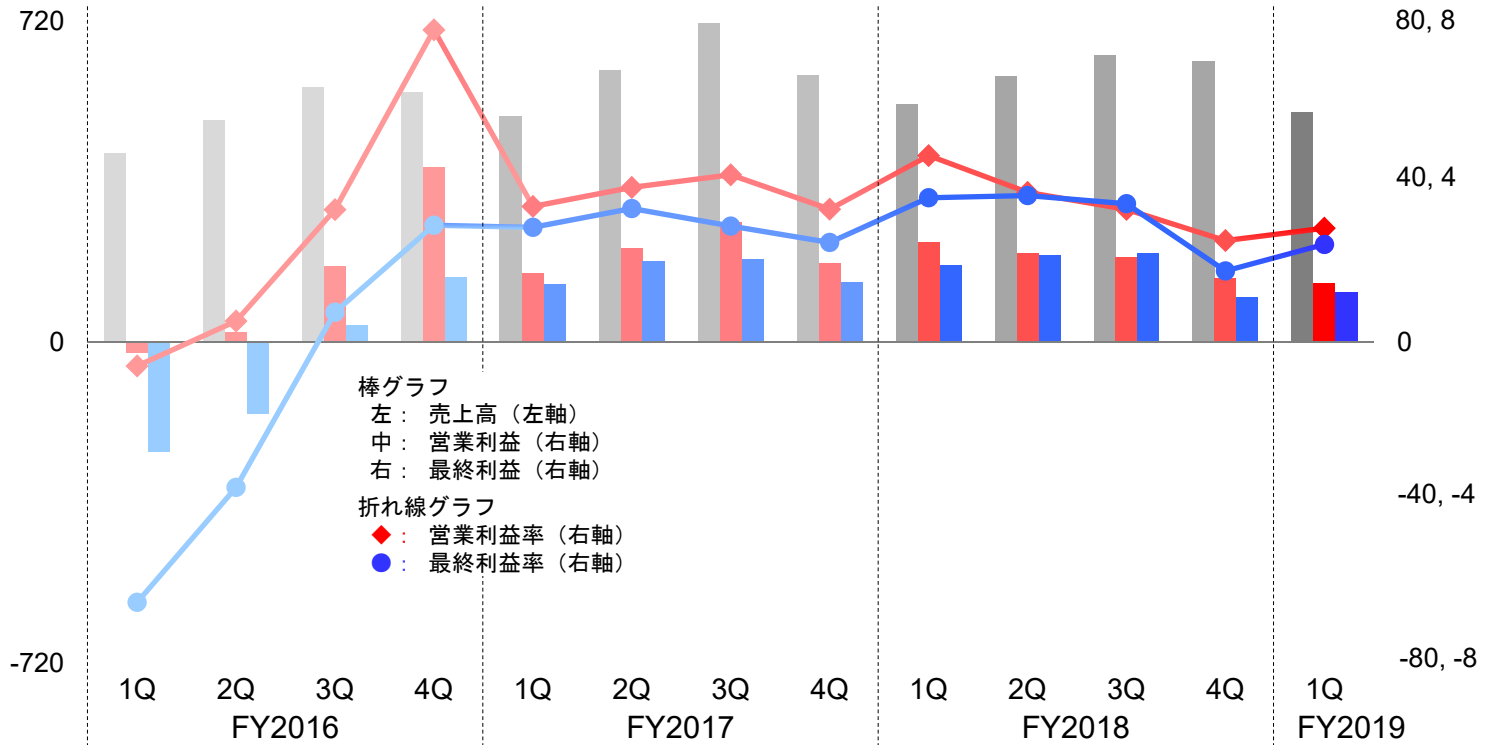
2019年度 第1四半期 連結業績概要(3)

・2018年度 第4四半期を底に業績は回復基調

・2019年度 第1四半期の売上高は、季節性から第4四半期を下回っているものの、
営業利益率・最終利益率は、第4四半期を上回る。

(単位:十億円)

(単位:十億円, %)



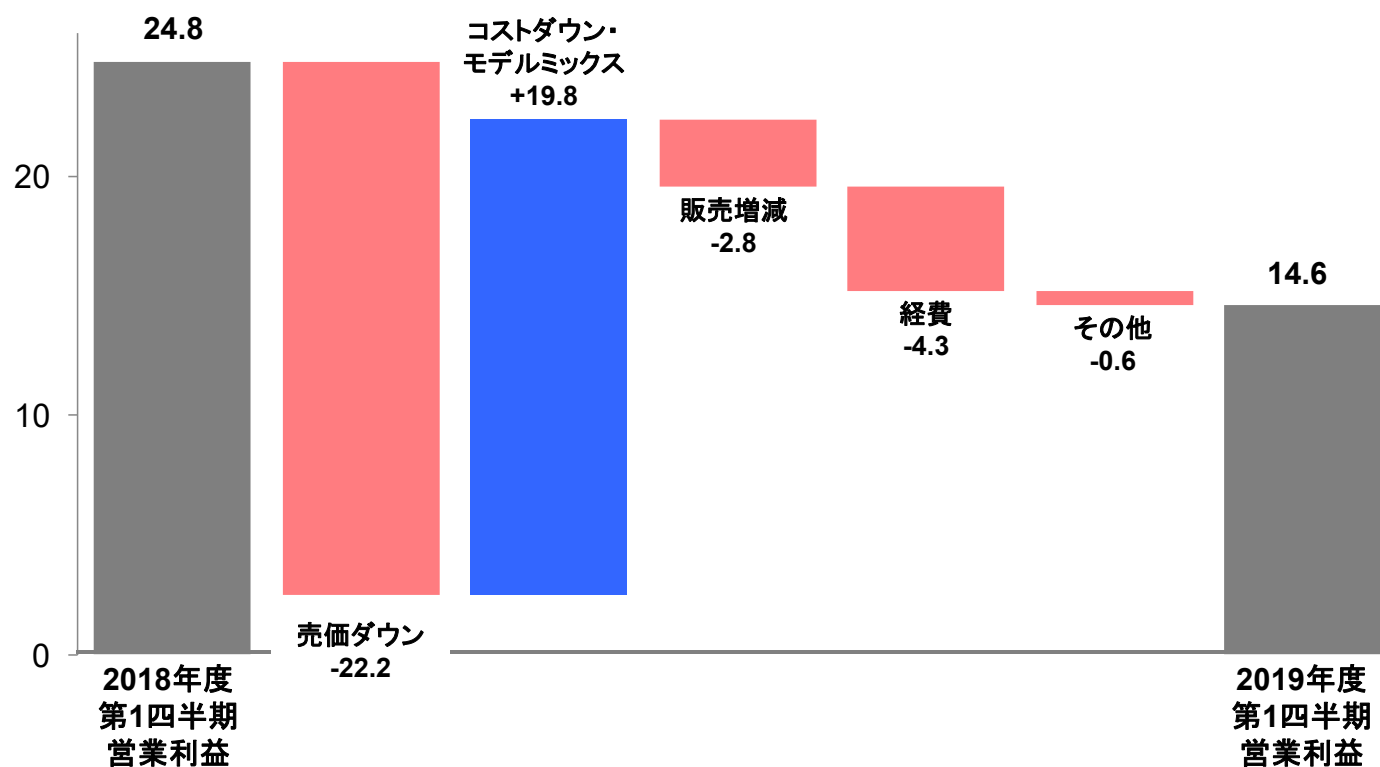
SHARP

4

- ・ 次のスライドは、四半期毎の業績の推移です。
- ・ 業績は、2018年度 第4四半期を底に回復基調にあります。
- ・ 季節性もあって、売上高こそ 第4四半期を下回っておりますが、
ご覧のように、第1四半期の営業利益率と最終利益率は、
第4四半期を上回りました。

2019年度 第1四半期 営業利益 要因別増減分析(対前年同期)

(単位:十億円)



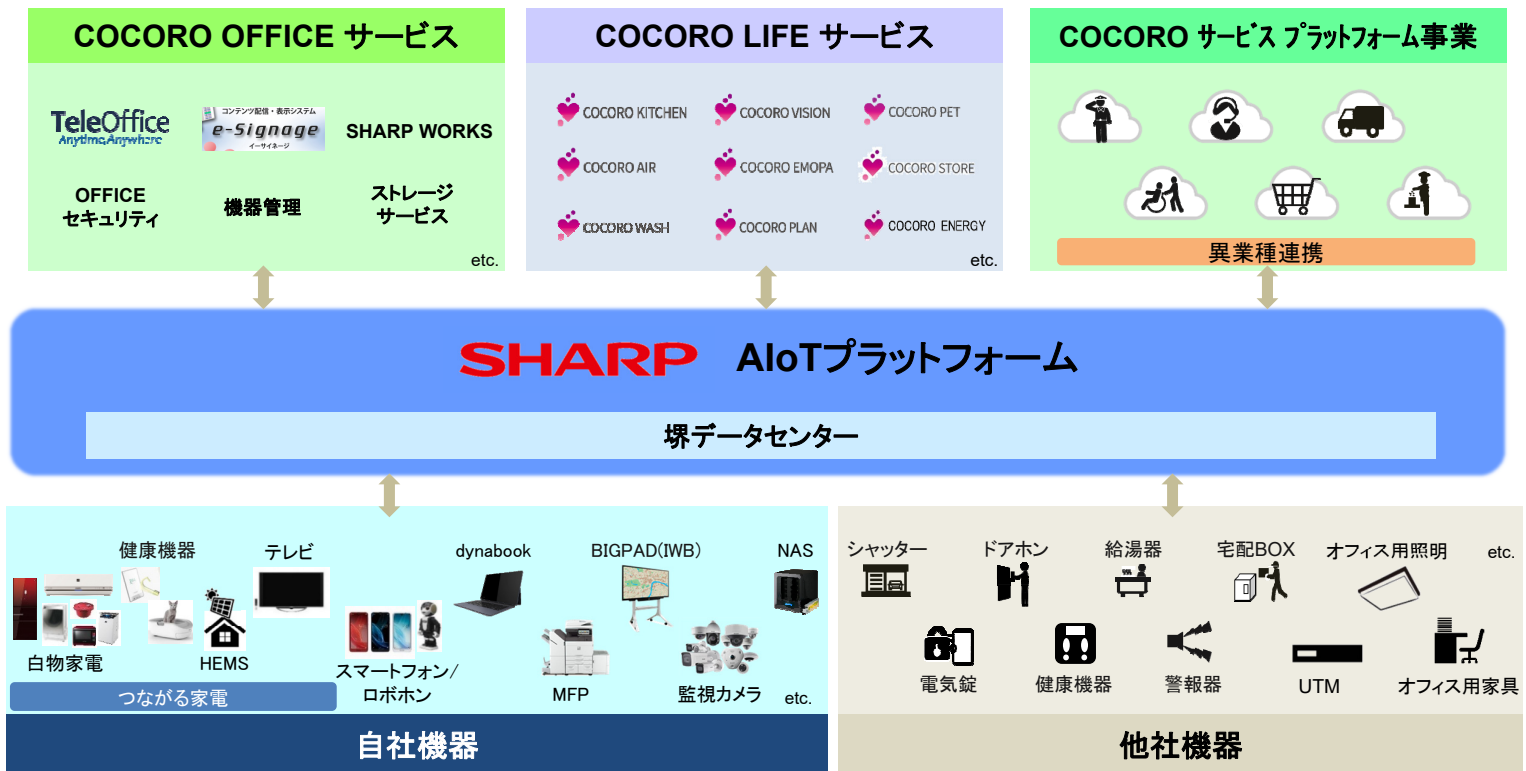
SHARP

5

- ・ 次のグラフは、前年同期からの 営業利益の増減を 要因別にまとめたものです。
- ・ 「売価ダウン」による 222億円の収益の減少、
「コストダウン・モデルミックス」による 198億円の収益の改善、
「販売増減」による 28億円の利益減、
「経費」の増加による 43億円の収支影響などがありました。

事業変革への取り組み

AIoTプラットフォームを軸に他社との協業を進め、
スマートライフサービス、スマートオフィスサービスの創出を加速



SHARP

6

- ・ 次のスライドをご覧ください。
セグメント情報に先立ち、事業変革への取り組みについて、ご紹介させていただきます。
- ・ このスライドは、事業ビジョンの1つである「AIoT World」に関する取り組みを示しておりますが、この中で、当社は、「AIoT 機器事業」「COCORO LIFE サービス事業」「COCORO OFFICE サービス事業」「AIoT プラットフォーム事業」の4つの事業領域の拡大に取り組んでいきます。
- ・ 「AIoT 機器事業」では、対応機器を順次拡大し、単なる道具ではなく、さまざまなサービスと連携し、暮らしのパートナーとなる製品を提供してまいります。
また、「COCORO LIFE サービス事業」では、機器のためにサービスを提供するだけでなく、サービスのために機器を提供するという発想をあわせ持ち、AIoT技術を活かした特長的なサービスで、スマートライフを実現してまいります。
- ・ 続いて、「COCORO OFFICE サービス事業」では、B2BやB2Gにおいて、顧客企業に合わせたサービスを提供し、スマートオフィスを実現してまいります。
- ・ 加えて、当社では、機器メーカーやサービス事業者に AIoTプラットフォームを公開しております。これにより、AIoTプラットフォームを軸に 他社とWin-Winの関係を築き、大きなスパイラルで AIoT市場を拡大してまいります。

事業変革を実現するための組織再編

3つの事業グループ連携のもと、One SHARPで事業変革を進め、
「8K+5G Ecosystem」「AloT World」の実現を目指す

スマートライフ	8Kエコシステム	ICT
<p>① <u>HE事業の統合</u></p> <ul style="list-style-type: none">■ 国内・海外のHE事業を統合し、事業間の連携を強化。	<p>① <u>「8K+5G Ecosystem」戦略の推進体制見直し</u></p> <ul style="list-style-type: none">■ 「8K+5G Ecosystem」戦略の加速に向け、組織再編を推進。	<p>① <u>COCOROプラス準備室の新設</u></p> <ul style="list-style-type: none">■ AloT技術を活かした「COCORO LIFEサービス事業」の将来の分社化を見据え、新組織を設置。
<p>② <u>HE傘下にB2B事業専任組織を設置</u></p> <ul style="list-style-type: none">■ B2B事業の拡大に向け、専任組織を設置。	<p>② <u>「COCORO OFFICE サービス事業」拡大に向けた体制構築</u></p> <ul style="list-style-type: none">■ ビジネスソリューション事業本部と国内/海外販売会社とのプロジェクト体制を構築。	<p>② <u>IoT事業本部の体制見直し</u></p> <ul style="list-style-type: none">■ AloTプラットフォームを軸とした他社との協業を加速すべく、将来の分社化を見据えて、組織体制を再編。

SHARP

7

- ・ 次に、事業変革を実現するための組織再編について、ご説明させていただきます。
- ・ スマートライフでは、国内と海外のHE事業を統合し、AloT機器・サービスのグローバル展開を加速させていきます。加えて、HE事業の傘下に B2B事業の拡大のための専任組織を設置いたします。

8K エコシステムでは、「8K+5G Ecosystem」戦略のさらなる強化を進めており、今後、組織再編も推進してまいります。

また、「COCORO OFFICE サービス事業」拡大に向け、ビジネスソリューション事業本部と国内/海外販売会社とのプロジェクト体制を構築します。

ICTでは、AloT技術を活かした「COCORO LIFE サービス事業」の将来の分社化を見据え、新組織「COCORO プラス 準備室」を設置いたします。

このほか、AloTプラットフォームを軸とした他社との協業を加速すべく、将来の分社化を見据えて、組織体制を再編いたします。

- ・ 今後、この3つの事業グループが相互に連携し、One SHARPで 事業変革を進めてまいります。そして、さらなる成長と「8K+5G Ecosystem」「AloT World」を実現してまいります。

新たな事業セグメントの概要

2019年度第1四半期より、3つの事業セグメントへ変更

	スマートライフ	8Kエコシステム	ICT
名称	野村 勝明 代表取締役副社長	戴 正 呉 代表取締役会長兼社長	石田 佳久 取締役副社長
主な事業 ・ 会社	<ul style="list-style-type: none">HE事業カメラモジュール事業シャープ エネルギー ソリューション(株)シャープ福山 セミコンダクター(株)	<ul style="list-style-type: none">TVシステム事業ビジネスソリューション事業ディスプレイデバイス事業研究開発事業	<ul style="list-style-type: none">通信事業AIoT事業COCORO LIFE サービス事業Dynabook (株)

SHARP

8

- ・ 次のスライドをご覧ください。新たな事業セグメントの概要をまとめております。
- ・ 当社は、2019年度第1四半期より、先ほどもご紹介させていただきました3つの事業セグメントへ変更しております。

スマートライフには、HE事業のほか、カメラモジュール事業やシャープ エネルギー ソリューション株式会社、シャープ福山セミコンダクター株式会社などが含まれております。

8K エコシステムには、TVシステム事業や ビジネスソリューション事業、ディスプレイデバイス事業、研究開発事業などが含まれております。

ICTには、通信事業や AIoT事業、COCORO LIFE サービス事業、Dynabook株式会社などが含まれております。

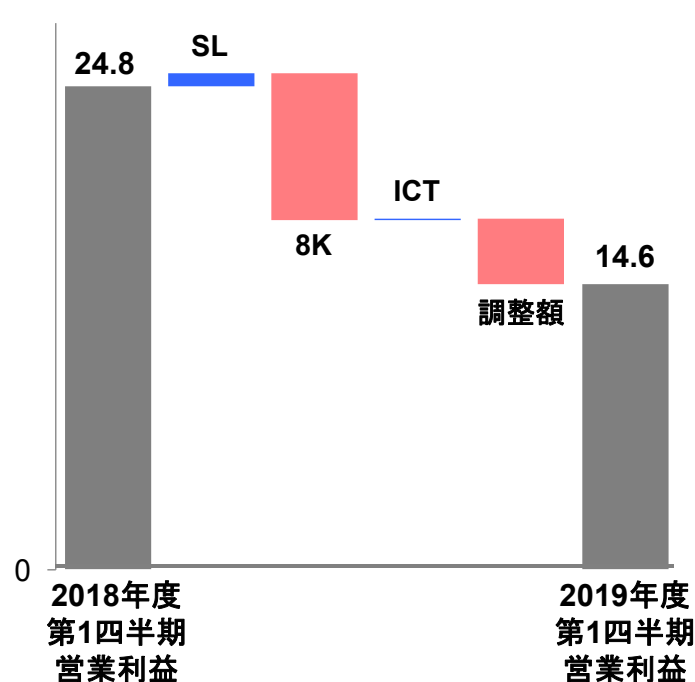
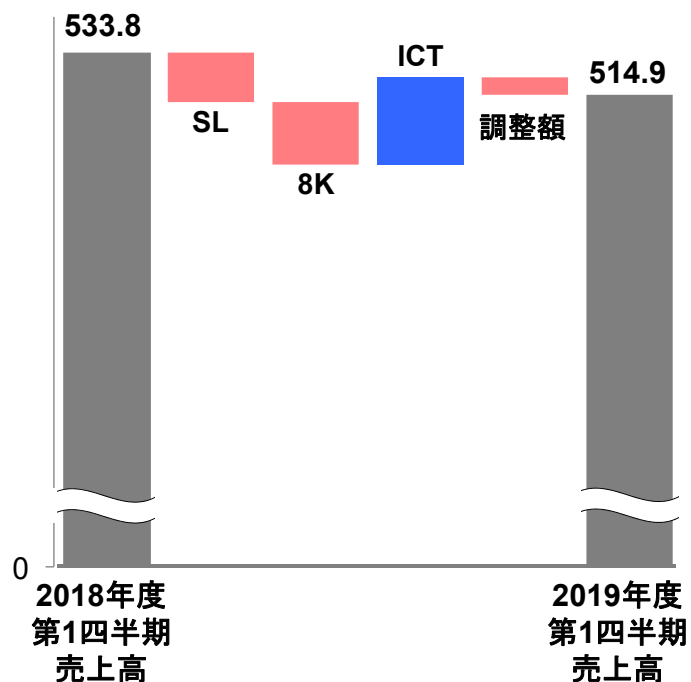
2019年度 第1四半期 セグメント別増減分析(対前年同期)

売上高

営業利益

(単位:十億円)

(単位:十億円)



SL :スマートライフ

8K :8Kエコシステム

ICT :ICT

SHARP

9

- ・ 次のグラフは、前年同期からの売上高と営業利益の増減をセグメント別にまとめております。
- ・ 売上高については、ICTが増加した一方、デバイスの顧客需要の変動や競争環境の変化があったことなどから、スマートライフと8Kエコシステムの販売が減少しました。

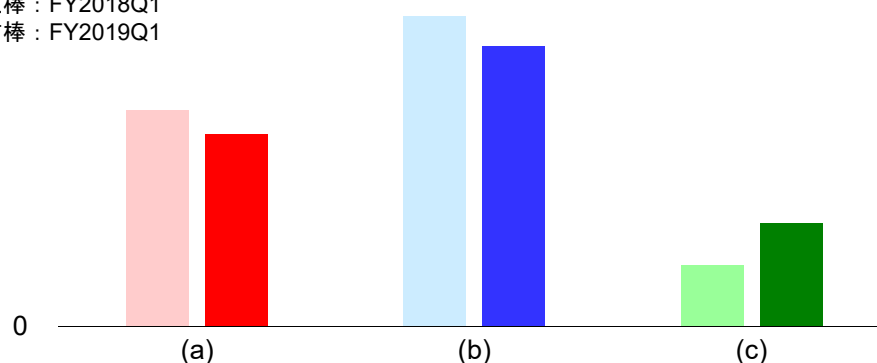
利益については、販売減に伴い8Kエコシステムが減益となったものの、売上が伸長したICTに加え、販売減の影響をコストダウンなどでカバーしたスマートライフも増益となりました。

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前同比
(a) スマートライフ	203.1	235.3	233.1	224.9	180.6	-11.1%
(b) 8Kエコシステム	291.1	337.6	350.4	334.2	262.5	-9.8%
(c) ICT	56.9	43.5	78.2	104.1	96.5	+69.5%
小計	551.3	616.4	661.8	663.4	539.8	-2.1%
調整額	-17.4	-21.3	-19.3	-34.8	-24.8	-
合計	533.8	595.1	642.5	628.5	514.9	-3.5%

左棒: FY2018Q1
右棒: FY2019Q1



SHARP

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

10

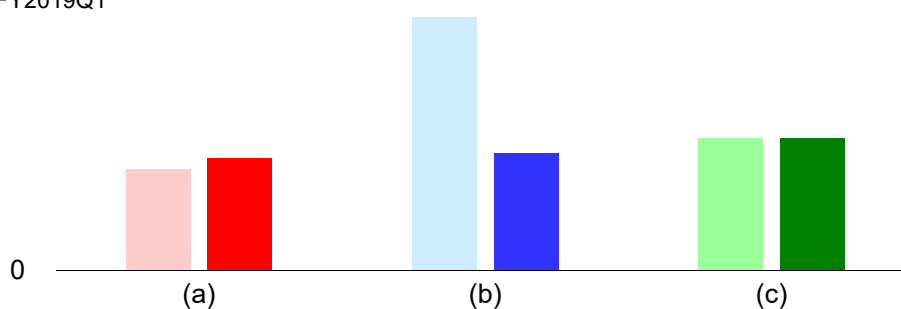
- ・ 次のスライドは、セグメント別 売上高の一覧です。
- ・ スマートライフの売上高は、前年同期比 11.1%減の 1,806億円となりました。
国内外でエアコンや冷蔵庫、洗濯機が伸長するなど健康・環境機器は好調に推移したものの、カメラモジュールやセンサーモジュールなどの販売が減少しました。
- ・ 8K エコシステムは、9.8%減の 2,625億円となりました。
PCやタブレット向けのパネルは伸長しましたが、スマートフォン用パネルの販売が減少しました。
また、中国などでテレビが 前年同期を下回り、車載向けパネルも 顧客の需要変動の影響を受けました。
- ・ ICTは、69.5%増の 965億円となりました。
新商品発売時期の違いや キャリアの料金体系変更の影響などがあり、通信事業の売上は前年同期を下回りましたが、Dynabook株式会社を連結した効果などにより、大幅に伸長しました。

セグメント別営業利益

※()内の数字は営業利益率です。(単位:十億円)

	2018年度				2019年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前同比
(a) スマートライフ	5.6 (2.8%)	8.9 (3.8%)	11.1 (4.8%)	5.1 (2.3%)	6.2 (3.5%)	+11.4%
(b) 8Kエコシステム	14.1 (4.9%)	13.1 (3.9%)	13.2 (3.8%)	6.8 (2.1%)	6.5 (2.5%)	-53.6%
(c) ICT	7.3 (12.9%)	2.3 (5.5%)	2.8 (3.7%)	8.7 (8.4%)	7.3 (7.6%)	+0.1%
小計	27.0 (4.9%)	24.5 (4.0%)	27.2 (4.1%)	20.8 (3.1%)	20.1 (3.7%)	-25.6%
調整額	-2.2	-2.3	-5.9	-4.9	-5.5	-
合計	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	21.2 (3.3%)	15.8 (2.5%)	14.6 (2.8%)	-41.1%

左棒: FY2018Q1
右棒: FY2019Q1



SHARP

11

- ・ 続いては、セグメント別営業利益の一覧になります。
各セグメントとも黒字になっております。
- ・ スマートライフの営業利益は、前年同期比 11.4%増の 62億円となりました。
健康・環境機器の販売が堅調だったほか、コストダウンによる効果もありました。
- ・ 8K エコシステムは、前年同期比 53.6%減の 65億円となりました。
顧客の需要変動や 競争環境の変化などがあるなか、
コストダウンを推進したこともあり、黒字を確保することができております。
- ・ ICTは、前年同期比 0.1%増の 73億円となりました。
通信事業の販売が減少した影響はありましたが、
Dynabookが 黒字を継続したことなどから、増益となりました。

営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前同 増減額
営業利益	24.8	22.2	21.2	15.8	14.6	-10.2
営業外損益	-3.5	-0.2	-2.4	-8.8	-0.6	+2.9
内:支払利息	-1.1	-1.0	-1.1	-1.0	-1.2	-0.1
為替差損益	-4.6	+0.9	-0.7	-1.3	+0.1	+4.7
持分法による投資損益	-2.3	-0.9	-1.9	-4.1	-0.9	+1.4
経常利益	21.2	21.9	18.8	6.9	13.9	-7.3
特別損益	+0.8	+0.5	+6.5	-1.3	+0.0	-0.8
税前利益	22.1	22.4	25.3	5.6	13.9	-8.2
法人税等 他	-2.9	-0.6	-3.2	+5.4	-1.4	+1.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	19.2	21.7	22.1	11.1	12.5	-6.7

SHARP

12

- ・ 次のスライドは、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
- ・ ご覧のように、2019年度 第1四半期には、
大きな「営業外損益」、「特別損益」はありませんでした。

連結貸借対照表推移

- ・手元資金で **A種種類株式の全数取得・消却**を行った
(2019年1月30日:9万2千株・約851億円、2019年6月21日:10万8千株・約970億円)
- ・この影響を除くと、**現預金・純資産は、取得開始前の12月末から改善**

	2018年度		2019年度	12末比 A種種類株式の 取得・消却 その他	2018年度		2019年度
	12月末	3月末	6月末		12月末	3月末	6月末
現預金	295.7	266.6	238.4	-182.1	467.4	410.3	379.2
受取手形・売掛金	540.6	539.9	497.1	+124.8	68.3	81.4	205.9
たな卸資産	278.3	243.8	271.9		40.0	30.0	30.0
その他	105.2	90.9	110.3		269.1	291.3	288.6
流動資産計	1,220.0	1,141.3	1,117.9		844.9	813.1	903.9
有形固定資産	419.9	405.0	405.8		0.0	0.0	0.0
無形固定資産	43.9	39.6	39.3		528.6	538.2	537.7
投資その他資産	278.8	280.2	283.3		144.3	142.5	137.3
固定資産計	742.6	724.9	728.5		673.0	680.7	675.1
繰延資産	0.0	0.0	0.0				
資産合計	1,962.6	1,866.3	1,846.4		1,962.6	1,866.3	1,846.4
期末日レート							
ドル円	109.91	110.01	106.75		21.6%	18.8%	13.5%
ユーロ円	125.38	123.06	120.96		423.2	350.6	248.7

SHARP

13

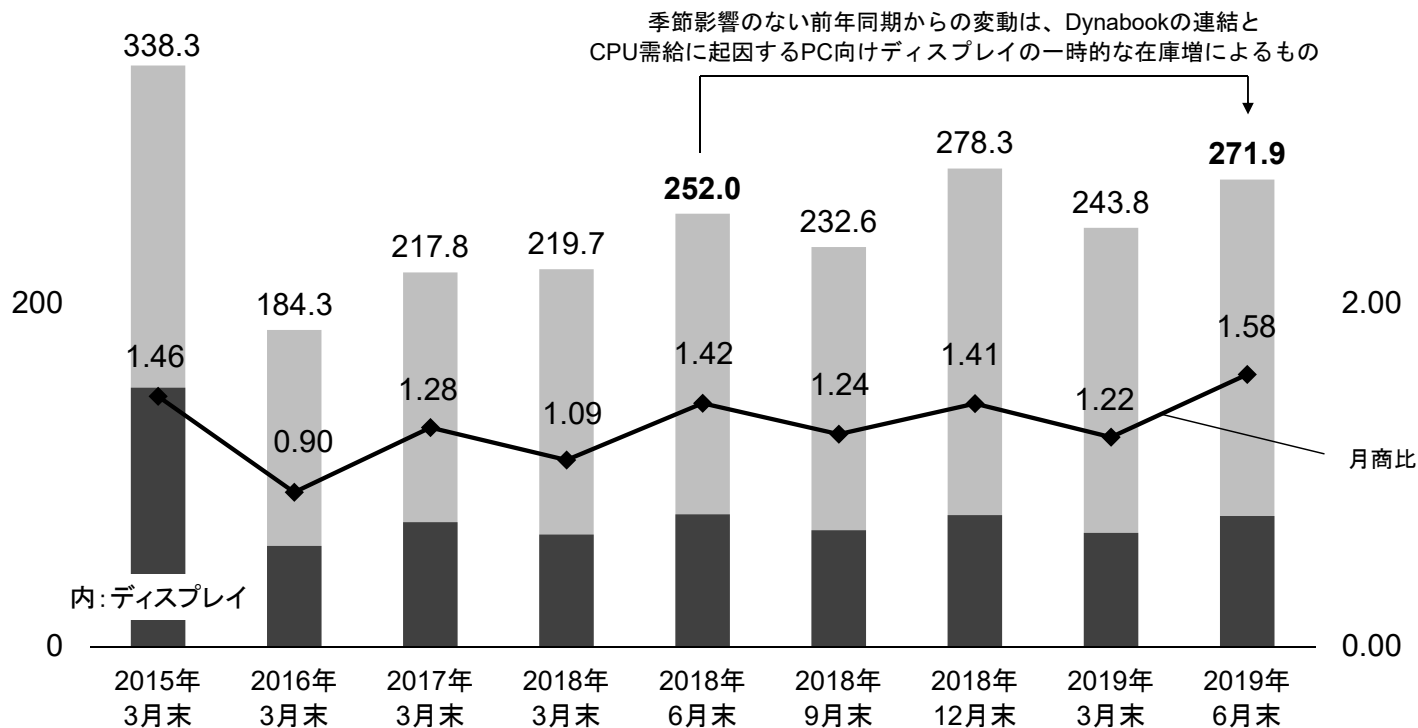
- ・ 次のスライドは、貸借対照表の推移です。
- ・ 当社では、2019年1月30日と6月21日の2回に分け、それぞれ約851億円、約970億円の手元資金を活用し、20万株あったA種種類株式を全数取得・消却しております。
- ・ 加えて、配当を実施したことなどもあり、6月末の「現預金」は2,384億円、「純資産」は2,673億円、「自己資本比率」は13.5%と、3月末から減少しております。
- ・ なお、利益の積み上げが着実に進んでいることもあり、特殊要因であるA種種類株式の取得・消却の影響を除くと、「現預金」と「純資産」は、取得・消却の開始前となる12月末から改善しております。

たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は、季節要因などもあり、2019年3月末の2,438億円に対し、2,719億円に
- ・今後の販売計画等を勘案し、引き続き適正な在庫水準を維持

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



SHARP

14

- ・次のスライドは、「たな卸資産」の推移です。

- ・2019年度 第1四半期末の「たな卸資産」は、2018年度末の2,438億円から2,719億円に、月商比では1.22ヶ月から1.58ヶ月になりました。

PC向けCPUの需給が非常にタイトな状況となったことから顧客需要に変動が生じ、一時的にPC向けディスプレイの在庫が増加しました。

また、これに加え、第2四半期以降の新商品発売に備えた商材確保など季節要因もありましたが、販売見込みなどを勘案した適正な在庫水準を維持できております。

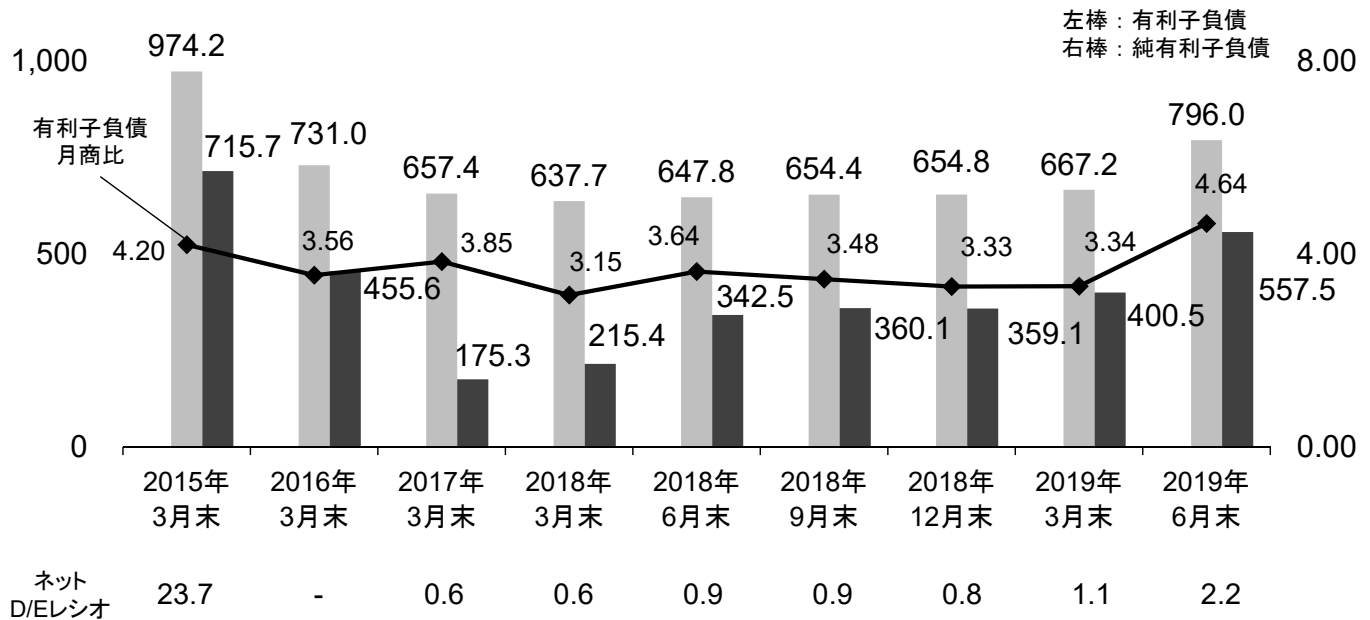
- ・今後も、予断を許さない事業環境は継続すると見ております。引き続き、需要動向や販売リスクを注視し、適正な在庫水準の維持に努めてまいります。

有利子負債の推移

- ・2019年6月末の有利子負債は、コミットメントラインを活用し成長投資資金を確保したため、7,960億円に、月商比でも4.64ヶ月に増加
- ・純有利子負債※は、A種種類株式の取得や配当の実施に伴い、現預金が減少した影響などから、3月末の4,005億円に対し、5,575億円になる

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



※純有利子負債：有利子負債 - 現預金

SHARP

15

- ・ 次のスライドは、有利子負債の推移です。
- ・ 2019年度 第1四半期末の有利子負債は、コミットメントラインを活用し、成長投資のための資金を確保したこともあり、2018年度末の6,672億円に対し、7,960億円となりました。

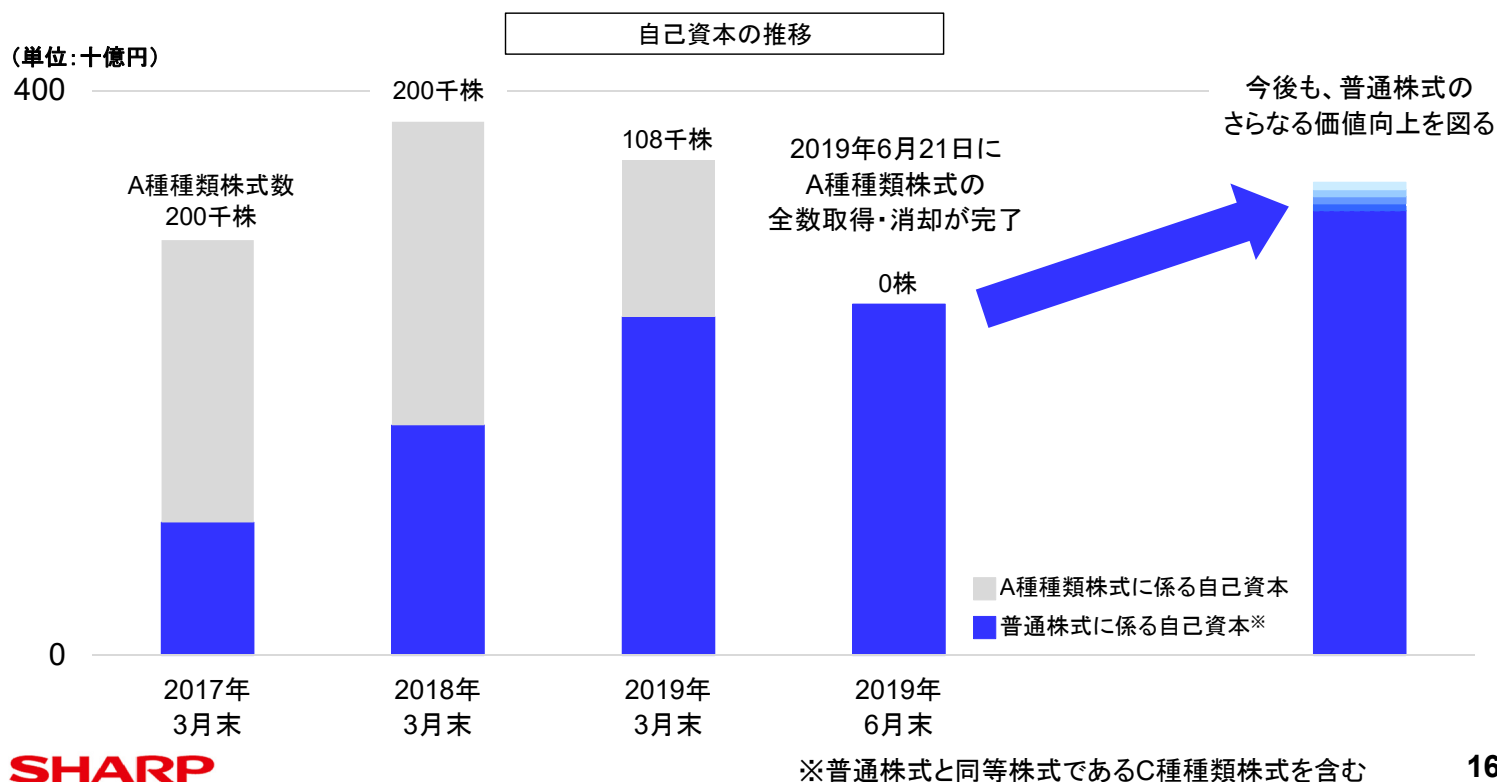
純有利子負債は、

A種種類株式の取得や配当の実施に伴い、現預金が減少した影響が大きく、2018年度末の4,005億円に対し、5,575億円となっております。

- ・ 引き続き在庫の適正化や、効率的な設備投資の実施に努め、キャッシュフローの改善を図ります。

資本政策について

- ・希薄化リスクや優先配当などを有するA種種類株式の全数取得・消却が完了し、資本の質が向上
- ・2016年度第3四半期以降、最終黒字の継続により、普通株式に係る自己資本[※]は着実に増加
- ・今後も利益創出により自己資本の積み上げを進めるなど、さらに普通株式の価値を高めていく



- ・ 次のスライドは、資本政策についてです。
- ・ 当社では、資本の質を高めていくことも重要であると考えております。
- ・ こうした考えのもと、希薄化リスクや優先配当などを有するA種種類株式について、2018年度より手元資金を活用した取得・消却を進めておりましたが、2019年6月21日にその全数を取得・消却することができました。
- ・ 2016年度の第3四半期以来、最終黒字を継続していることから、普通株式に係る自己資本は着実に増加しています。今後も、安定的な利益の創出により自己資本の積み上げを進めるなど、さらなる株主価値の向上に努めてまいります。

Ⅱ．補足資料

- ・ 補足資料として、「セグメント別売上高・営業利益」等の実績をまとめております。
- ・ 当面は、厳しい事業環境が継続すると考えておりますが、業績は、2018年度の第4四半期を底に回復基調にあります。

第2四半期以降、着実な業績の伸長に取り組むとともに、引き続き、財務体質の改善や株主価値の向上を進めてまいります。

そして、株主をはじめ、すべてのステークホルダーの利益の最大化を図り、皆様から、さらに信頼していただける企業を目指してまいります。

- ・ ご清聴ありがとうございました。

連結業績概要

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度		
	上期	下期	通期	上期予想	下期予想	通期予想
売上高	1,129.0	1,271.0	2,400.0	1,200.0	1,450.0	2,650.0
営業利益	47.0	37.1	84.1	44.0	56.0	100.0
(利益率)	(4.2%)	(2.9%)	(3.5%)	(3.7%)	(3.9%)	(3.8%)
経常利益	43.2	25.7	69.0	42.0	53.0	95.0
(利益率)	(3.8%)	(2.0%)	(2.9%)	(3.5%)	(3.7%)	(3.6%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	40.9	33.2	74.2	37.0	43.0	80.0
(利益率)	(3.6%)	(2.6%)	(3.1%)	(3.1%)	(3.0%)	(3.0%)

SHARP

18

四半期 連結業績概要

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	533.8	595.1	642.5	628.5	514.9
営業利益	24.8	22.2	21.2	15.8	14.6
(利益率)	(4.6%)	(3.7%)	(3.3%)	(2.5%)	(2.8%)
経常利益	21.2	21.9	18.8	6.9	13.9
(利益率)	(4.0%)	(3.7%)	(2.9%)	(1.1%)	(2.7%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	19.2	21.7	22.1	11.1	12.5
(利益率)	(3.6%)	(3.7%)	(3.4%)	(1.8%)	(2.4%)

SHARP

19

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2018年度		
	上期	下期	通期
スマートライフ	438.4	458.1	896.6
8Kエコシステム	628.7	684.7	1,313.5
ICT	100.5	182.3	282.9
小計	1,167.8	1,325.2	2,493.0
調整額	-38.7	-54.2	-93.0
合計	1,129.0	1,271.0	2,400.0

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

20

セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2018年度		
	上期	下期	通期
スマートライフ	14.5 (3.3%)	16.3 (3.6%)	30.9 (3.4%)
8Kエコシステム	27.3 (4.3%)	20.0 (2.9%)	47.3 (3.6%)
ICT	9.7 (9.7%)	11.6 (6.4%)	21.3 (7.6%)
小計	51.6 (4.4%)	48.0 (3.6%)	99.6 (4.0%)
調整額	-4.6	-10.9	-15.5
合計	47.0 (4.2%)	37.1 (2.9%)	84.1 (3.5%)

※()内の数字は営業利益率です。

SHARP

21

四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
スマートライフ	203.1	235.3	233.1	224.9	180.6
8Kエコシステム	291.1	337.6	350.4	334.2	262.5
ICT	56.9	43.5	78.2	104.1	96.5
小計	551.3	616.4	661.8	663.4	539.8
調整額	-17.4	-21.3	-19.3	-34.8	-24.8
合計	533.8	595.1	642.5	628.5	514.9

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
スマートライフ	5.6 (2.8%)	8.9 (3.8%)	11.1 (4.8%)	5.1 (2.3%)	6.2 (3.5%)
8Kエコシステム	14.1 (4.9%)	13.1 (3.9%)	13.2 (3.8%)	6.8 (2.1%)	6.5 (2.5%)
ICT	7.3 (12.9%)	2.3 (5.5%)	2.8 (3.7%)	8.7 (8.4%)	7.3 (7.6%)
小計	27.0 (4.9%)	24.5 (4.0%)	27.2 (4.1%)	20.8 (3.1%)	20.1 (3.7%)
調整額	-2.2	-2.3	-5.9	-4.9	-5.5
合計	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	21.2 (3.3%)	15.8 (2.5%)	14.6 (2.8%)

※()内の数字は営業利益率です。

設備投資・減価償却費等

	2018年度			2019年度
	上期	下期	通期	通期予想
	(単位:十億円)			
設備投資	27.8	28.1	55.9	76.0
内:ディスプレイ	9.2	14.5	23.8	35.7
減価償却費	34.5	37.3	71.9	80.0
研究開発費	53.8	54.7	108.5	110.0
(単位:円)				
平均為替レート	2018年度			2019年度
	上期	下期	通期	通期予想
	(単位:円)			
米ドル	109.27	110.55	109.91	105.00
ユーロ	128.34	125.47	126.90	125.00

四半期 設備投資・減価償却費等

	2018年度				2019年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
	(単位:十億円)				
設備投資	11.3	16.4	14.7	13.4	9.0
内:ディスプレイ	4.4	4.7	8.3	6.2	3.6
減価償却費	17.1	17.3	18.9	18.4	14.9
研究開発費	30.4	23.3	32.0	22.6	28.9
(単位:円)					
平均為替レート	2018年度				2019年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
	(単位:円)				
米ドル	108.07	110.46	111.90	109.21	108.90
ユーロ	128.56	128.12	127.28	123.66	121.99

SHARP

Be Original.

